



碧南ロータリークラブ週報

第3140回例会 令和7年9月10日(水)

- 会長 黒田 泰弘
- 幹事 永坂 誠司
- 会場監督(SAA) 長田 一希

2025-2026 年度
国際ロータリー会長メッセージ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <https://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 杉浦邦彦・長田康弘・杉浦秀延

**UNITE
FOR
GOOD**

よいことの
ために
手を取りあおう

●斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

華道家元池坊いけばな教授 岩瀬美香様

会 長 挨 拶

失礼致します。

我が碧南 RC にゆかりがございました語り部の田中ふみ枝さんを皆様憶えていらっしゃるのでしょうか？実は角谷信二会長の年度にプログラム委員長を務めていた石川鋼勇君から卓話を1つ頼まれまして、私は田中さんをお願い致しました。



黒田泰弘会長

鋼勇君に「もうそろそろ具体的な日にちを決めましょうか？」と言ったら、「あっ、忘れていて全部埋まってしまいました。」との返事をいただき、田中さんには次年度以降に延期ということでご了承をいただきました。

しかしながら、なんとその年にご病気で若くしてお亡くなりになりました。先週、田中さんのお弟子さんが中心となりまして、西尾市で追悼会が開催されている様子を KATCH の番組で拝見致しました。

幻となってしまいました碧南 RC で語っていただく予定だった卓話のテーマは「青い目の人形」でした。皆様には田中さんの声でお聞かせしたかったのですが、本当に残念でなりません。本日は田中さんの代わりに少しお話しさせていただきます。

私は 40 年ほど前からライフワークとして、明治以降の子ども文化に関する品々の研究・保

存をしています。当然、青い目の人形にも関心を持ち、その人形を所有している幸田町の小学校や長野県飯田市の個人宅まで出向いたこともありました。

青い目の人形は今から約 100 年前、日系移民が社会問題となっていた時代、日米関係の悪化を憂いたアメリカの宣教師のシドニー・ルイス・ギューリック博士が、関係改善のために考案した人形による日米親善でした。「子どもの頃から友好の心を育めば、大人になっても仲良くできる」という発想のもとでの取り組みでした。当初は日本側の協力を得るのに苦労しましたが、渋沢栄一さんの全面的な協力を得て実現されました。

これは私のコレクションで、昭和 2 年の雑誌に特集で紹介をされたものです。これの中には当時の青い目の人形の内容が詳しく紹介されています。1927 年のひな祭りに合わせて、全米から約 13,000 体のいわゆる「遊女人形」が日本に届けられました。主要な受け入れ港は横浜港でした。

6 年前の 1921 年には童謡・民謡作詞家の野口雨情が作詞し、大ヒットした「青い眼の人形」の曲が発表されており、この歌のイメージと人形の贈呈が結び付き、「青い目の人形」という呼び名が定着しました。しかし、実際には「フレンドシップドール（友情人形）」という正式名称があり、曲とは直接の関係はありません。また、白人の女の子だけでなく、黒人やインディアンの人形も含まれ、目の色も青だけでなく、茶色や黒もありました。素材もセルロイド製ではなく、コンポジションやビスク製のものが多く使われていました。

国を挙げた取り組みとなり、日本全国の小学校で熱烈な歓迎を受け、返礼として日本側もクリスマスに合わせて、超高級な市松人形を「答礼人形」としてアメリカに贈ることで、大きな成果を挙げました。ところが、戦争が始まると流れは一変し、日米開戦後の 1941 年以降は「敵性人形」とされるようになり、学校や家庭で破壊されました。さらに日本全国での激しい空襲により、数多くが消滅したという数奇な運命をたどったのが青い目の人形です。簡単にご説明をさせていただきましたが、詳しく話せば 30 分の卓話が必要です。

最後に当時のエピソードを 1 つ申し上げます。1927 年 2 月 2 日の大阪朝日新聞には「アメリカのお人形歓迎歌を募集、幼稚園生・小学生の作を日本中の子どもたちが歌う」という見出しの記事が掲載されていました。そして、見事 1 等に選ばれたのは日本人ではなく、朝鮮の普通学校 4 年生の少女のものでした。人形は日本国内だけではなく、日本の統治下にあった国へも送られていまして、台湾へ 98 体、広東州へ 10 体、樺太へ 20 体、朝鮮へ 193 体でした。

因みに選ばれた歌詞を読み上げますと、

「星の国からゆらゆらと 金のお船や銀の船 人形様のお客様 どうぞこちらへ桜のもとへもうせん敷いて遊びましょう ごちそうしまししょうお米のご飯 鬼ごっこしようか 向こうの小屋までかくれんぼしようか じゃんけんぽいあいこでぽい お人形様のお客様」
というものでした。

少し違和感があると思うのは私だけではでしょうか？朝鮮の子どもが母国語と言えない日本語で、ここまで日本情緒を盛り込むことができるのでしょうか？やはりこれは植民地における日本語教育と日本化教育を徹底して行った成果だと言わんばかりの時代背景を感じてしまいます。

以上になります。本日もよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第3回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ ガバナー事務所より「2026年国際大会 台北（台湾）地区ナイト参加人数（概算）についてのお伺い」が届いております。
- ・ 9月17日（水）はガバナー補佐訪問となりますので、委員長の皆様はご出席いただきますよう、よろしくお願い致します。



永坂誠司幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 59 名（内出席免除者 14 名の内出席者 12 名）出席者 49 名	
出席対象者 49／57 名	出 席 率 85.96%
欠席者 10 名（病欠者 0 名）	

<ニコボックス>

- 鈴木 泰博君 9月4日、長男夫婦に女の子が生まれました。孫が3人になりました。
- 角谷 信二君 祝リーグ優勝！！ あと2つ頑張ります。
- 亀山 晋次君 角谷信二さん、藤関孝典さん、杉浦栄次さん、ゴルフ部9月例会後、お世話になりました。楽しかったです！！
- 長松 政孝君 娘がピアノコンクールで全国大会へ出場し、優秀賞をとり、息子が知多半島の全中学校が参加するソフトテニス大会のダブルスで2位になりました。
- 榊原 靖浩君 9月4日、碧南ロータリークラブゴルフコンペにてルールのダブルペリアに大ハマリして、優勝させて頂きました。ありがとうございました。
- 竹内 康人君 本日の卓話講師、岩瀬美香様をご紹介します。

卓 話

「池坊いけばな ～花に学び、心を整える日本の伝統文化～」

華道家元池坊いけばな教授 岩瀬美香様



岩瀬美香様

本日、「いけばな」のお話をさせていただきます岩瀬美香と申

します。このような機会をいただいて、本当に光栄に思っております。誠にありがとうございます。本日は「池坊いけばな」について、歴史や特徴、私の経験を交えて、現代のいけばなの事情や実演を含めまして、お話しさせていただきたいと思えます。短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願い致します。



まず、スクリーンを見ていただきたいと思います。「皆様、最後に花をじっくり眺めたのはいつですか？」と書いてあるんですけども、どうでしょうか？お忙しい方ばかりなので、日常でお花を見る機会という時間は少ないと思います。

私が所属しております「池坊」について、簡単にご説明させていただきたいと思えます。池坊はいけばなの根源と言われております。560年もの歴史を持ち、京都・六角堂にその起源がございます。聖徳太子による創建とされ、境内にある「へそ石」は京都の中心とも言われる場所です。小野妹子が出家したという伝承もある由緒ある地です。

室町時代にはいけばなが武士や僧侶の嗜みとして広まり、江戸時代には「六花会」という展覧会が開かれました。現在では女性の稽古ごとというイメージが強いかもしれませんが、もともとは男性社会の文化でございました。

映画「花戦さ」では池坊専好と戦国武将たちの関わりが描かれ、織田信長・豊臣秀吉・前田利家らにいけばなを献上する様子がドラマチックに再現されております。その中で使われた「大砂物（だいしゃもん）」という大作の花は、制作費が1,000万円もかかるもので、今でも私たちは「すごいね！」と言って、語り草になっております。

また、先日を訪れた愛知県西尾市吉良町の旧糟谷邸では、江戸時代の蔵に古い時代の池坊の免状が展示されており、当時の生活の中でいけばながいかに重要なものであったかを感じました。格式ある場所に花を生けるという行為は、精神性と美の追求でもございました。

次に生け方の説明をしていきたいと思います。池坊には「立花（りっか）」、「生花（しょうか）」、「自由花（じゅうか）」という3つの様式がございます。立花は自然の景観美を表す荘厳な様式、生花は1本の草木の美を端的に表す様式、自由花は現代的で創造的な作品様式になります。この3つの様式の根底には「自然を尊ぶ心」がございます。

例えば、1本の枝にも根があって、枝がどういう向きに向かっていって、どのぐらいの大きさの花が咲くのか、その向きは太陽に向かっていているのか、それともうつむいているのか、そういったものを見通して、人間が主役という訳ではなく、花材が主役という気持ちで生けていきます。

切り花というのは根から切ってしまった時に命のカウントダウンが始まっております。そういった中でいかに綺麗に生けて、生かしてあげるかというのが、私たち華道人の使命だと思っております。

私は「伝統文化いけばなこども教室」というのをやっております、小学生から中学生のお子さんが対象なんですけれども、いけばなが心を整える効果があることを日々実感しております。子どもたちが花と向き合ううちに落ち着きを取り戻し、長く通ってくれる姿にいけばなの力を感じております。

池坊いけばなは単なる花の技術ではなく、自然との共生や命の大切さを学ぶ場でもあります。SDGs や環境教育との親和性も高く、国内外から注目されています。いけばなは人の心を整え、社会と調和する力を持っています。花と向き合うことで自分自身と静かに対話し、現代社会に必要な「心の余白」を生み出してくれるものだと感じています。

私は微力ながらこれからもいけばなという伝統文化の世界で、花と人をつなぐ架け橋になれたらいいなと思っています。そのために精進してまいりたいと思っています。

短かったんですけども、本日は最後までご清聴いただき、本当にありがとうございました。

次回例会案内

令和7年9月24日（水）定款第7条第1節（d）（1）による休会

令和7年10月1日（水）定款第7条第1節（d）による休会

令和7年10月8日（水）

クラブフォーラム「落語 米山梅吉物語」 落語家 参遊亭遊助氏